

担い手の経営のライフステージに応じた支援

(2) 飼料用米多収量化に向けた研究・実証栽培等の取組みについて

JAふくしま未来（福島県）

新規	継続
○	(平成 年 月)

1 動機 (経緯)	JAふくしま未来そうま地区（旧JAそうま管内）は、東日本大震災による津波被害・原発事故により多大な被害を受けました。当該地区での営農再開に向けては、風評被害の影響が少ない飼料用米の生産拡大が効果的な対策であり、一層の多収量化が課題となっていました。 当該地区では依然として自主避難者が多く存在し、慢性的な労働力不足が続いており、生産作業の効率化が課題となっていました。
2 概要	そうま地区に最も適合した多収性米の選定による飼料用米の生産量向上、直播方式等による多収米の効率栽培方法の確立を目的に、A社（注）と連携し、飼料用米の多収量化・栽培効率化に向けた研究・実証栽培等に取り組んでいます。 （注）飼料用米・作物等の多収性品種の研究開発を行うベンチャー企業
3 成果 (効果)	本取組みは、飼料用米の多収量化等に効果的であり、JA管内での面的展開を通じ、営農面積の維持・拡大、生産者の所得向上につながることを期待されています。
4 今後の 予定（課題）	当該研究・実証栽培等の結果を踏まえ、飼料用米の品種選定、管内での面的展開を図っていく予定です。

【研究・実証概要】

